

つゆがきた

入来院重朝



今年も半分過ぎます。一年前私は坐骨神経痛が発症しほとんど何もできませんでした。一年たち痛みはさり、おかげで今はたいがいなんでもできます。これは渋谷君がいい先生を紹介してくれたおかげです。もつべきは良き友であります。ありがとうございます。

さてつゆがさり夏がくると例の戦後七〇年が巡ってきます。最近の七〇年談話云々の話が沙汰やみになった感がありますが、これは四月安倍総理の米国議会での演説の見事な成功で万事OKになったのではないか、とそんな気がします。ここ一番にかけたトッチャンボーヤの面目躍如たるものがありました。

さて、目下世界は分裂中です。恐らく将来近いうちに大分裂に至る序章が例の「AIBJ」に得たりや応とばかり昨年分裂をまぬかれて一息ついたイギリスがのり、あとに続けとばかりヨーロッパ勢が続きました。先進七カ国が二分裂したわけです。つまり腹の底ではヨーロッパ勢はアメリカなどオレ達の植民地と思っていた。つまりバカにしていた。それが金の切れ目がなんとやらで、宗主然としているイギリスがついにアメリカを見切ったというわけです。しかしイギリスこのどうしようもないしたたかな近代世界七つの海を支配した誇り高きバイレートの末裔がシナの本質をマットウに把握した上でのことか、私はいささかあやしいと思います。

シナの実体は本当はよくわからない。これは現在のシナの中核にいてシナを日常支配している連中ですらホントのところはわからない

いのではないか。最近流れてくる情報は、国内には在庫の山が累々と続きその捌口は当分見当たらず、おまけにおかねも実は不足勝ちだとか。火のないところに煙は立たないというから大体当たらずとも遠からずというところでしょう。

今回日本がどうして習近平の執拗な誘いにのらずに済んだのか、一つにはアメリカに対する配慮ももちろんだが、それだけではなく私は一言で神助の賜物だったと思っています。

四月のトッチャンボーヤの米議会での演説が日本の一本立ちを世界が認めるところとなつて弱虫オバマをちよつと元気づけただけでなく、ヨーロッパからそして、シナからバカにされた若きアメリカ人全体をエンカレッジしたというわけです。こうして日本はアジアのリーダーとなつたわけです。ただその自覚は目下国会での安保法制論議をきいていると

全くないと私は思っています。

大体我が国の議員先生方の大半は世襲でありつまり家業職であります。本来国家の行く末に断固とした責任をもたなくてはならぬ筈ですが、我が国ではそうならなかった。これは明治政府の性格とからみますが、はしょつていうと身内同類の利益第一つねに時勢のおもむくところに沿い長いものにまかれろです。特に戦後世代は ユダヤ の洗脳教育の効能がなかなかよく効きすぎて彼等の議論をたまにきいているとせいぜい新制中学二年生程度の学級委員会の演説会です。

明治一一新以来日本のくには表層が変わりました。つまりサムライ不在、日本の心をつくつていた武の魂の不在です。それでもちゃんと時世時節とばかり、トッチャンボーヤが出現するから日本国は不思議なクニです。

今回五十七国の参加で「AIBJ」が出發進行

しますが、シナは共産党独裁国家です。したがってかつてソビエト連邦が崩壊に至る過程を反面教師として研究していかないわけがない。その学習の成果の一つが習近平の軍への配慮としたがって軍備増強に余念がないことです。つまり普通のクニでは全くない。その上シナ民族の古来から変わらぬその特異な特徴たとえば金銭へのあくことのない欲望等いづれも参加国はそれらをイヤという程しるところとなるでしょう。

ロンドンシティをベースキャンピングにして世界を支配してきた金融マフィアの団結がゆるがないかどうか、一九一三年以来FEDをフロントにして百年間ドル発行権を握りアメリカをヤドリ木にしてきた金融マフィアのこれらの挙動が見ものです。

アメリカも実質国内は分裂中です。来年の大統領選挙であらためて統一国家を維持出来

るかどうかがとりあえずの課題です。

わが日本国の課題は勿論サツサと憲法改定してホンモノの独立国になることです。

さてツユの晴れ間に庭に出てみるとみどりは濃く貞子手植えのアジサイがそれぞれ個性的なツボミを開いている。一度刈り込んだ芝生並びに生垣の植え込みの今を盛りと色とりどりの花を咲かせるツツジの根本にまた築山に再び伸びる草花、これらを早目に刈り込まねばならないと心がせく、しかしいつやるかつゆの中休みを見て近日中にそれも早朝にと思ふ。

(炬ばたセイ談庵主)

